

セビ枕草子アセモ江戶アセブ瀨前アセビ勢州ヨシミ筑前アシブ雲州など猶あれど略すあれど是に非ずか
かれば万葉なるハ櫛子にて木瓜モケも通用し、堀川百首なるは全く櫛子をよめりと治定したらむ
こそよからめ、

〔萬葉集七〕詠井

安志アシ妣ビ成ナス榮カエシ之キミ君ノ之ガ穿ホリシ之井井ノ之石石ノ井ノ之水水ノ者ハ雖レ飲ム不レ飽ム鴨カモ

〔萬葉集十〕詠花

川津カハツ鳴ナク吉野ヨシノ河カハ之ノ瀧タキ上ノ乃ハ馬ウマ醉シ之ノ花ハナ會アヒ置オク末マ勿ナ勤キ

〔萬葉集十〕問答

春山ハルヤマ之ノ馬ウマ醉シ花ハナ之ノ不ニク惡ク公キミ爾ニ波ハ思シ惠エ也ヤ所ヨリ因リ友トモ好コシ

〔萬葉集二十〕伊蘇可氣乃美由流伊氣美豆氏流麻渥爾左家流安之婢乃知良麻久乎思母

〔新撰六帖六〕あせみ

よしの川たぎつ岩根の白沙にあせみの花も咲にけらしな

家良

爲家

たきの上のあせみの花のあせ水にながれてくいよつみのむくいを

〔夫木和歌抄二十九〕あせみ

おそろしやあせみの枝を折たきてみなみにむかひいのるいのりは

光俊朝臣

〔和漢三才圖會八十四〕馬醉木 阿世美 俗云阿世保

按馬醉木生山谷高者二三丈小者一二尺皆枝葉茂盛其葉狹長微鋸齒淺綠色硬而攢生於枝極丸
十月出花芽春開小白花作房結子亦作房一子中細子多人家庭砌植之以賞四時不凋相傳馬食此

葉則醉故名